

3年3組 国語科学習指導案

日時 平成28年7月8日(金) 第2校時

場所

授業者

講師

- 1 単元名 言葉を見つめる 第3学年「C 読むこと」「B 書くこと」
学習材 「俳句の可能性」宇多喜代子 「俳句を味わう」

2 単元のねらいと概要

本単元では、俳句の鑑賞文を読むことを通して、筆者のものの見方や考え方、感じ方、表現の仕方を読み味わうとともに、よく知られた俳句を読んだり、自分で創作したりすることから、俳句の世界に親しむことをめざしている。この単元でのつきたい力としては、「俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して、鑑賞したり創作したりする力」(読むことア 語句の意味の理解 書くことア 課題設定や取材)を高めることである。

世界的に知られた日本の代表的な伝統的言語文化である俳句は知っていても、どのように鑑賞し、どうするとうまく創作できるのかは理解していない生徒が多い。その点をこの鑑賞文から読み取り、それを活用して俳句を創作することで、表現の豊かさや多様なものの見方、考え方、感じ方を読み味わって、言語活動「さまざまな俳句を読み味わい、批評すること」を行う。

生徒は、3日間の修学旅行で俳句を創作したり、大垣市独自の教科「ふるさと大垣科」において、生活班で協力して連句に挑戦したりしている。これらの学習と連携することで、俳句を鑑賞する能力を高め、自ら俳句を創作して芭蕉蛤塚忌全国俳句大会に応募するという意欲をもたせることで、日常生活の中にある美意識を見つめ、身近な自然や身の周りの文化に対する見方を育み、言語感覚を鋭くしていきたいと考える。

3 単元の目標

- (1) 俳句を鑑賞したり創作したりする楽しさを知り、想像を働かせながら俳句を読み味わおうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 季語や切れ字などに注意して、俳句における語句の効果的な使い方など表現上の工夫を読み取ることができる。
(読むこと ア 語句の意味の理解)
筆者のものの見方や考え方、感じ方を読み味わい、さまざまな俳句を読み比べて、表現の仕方について評価することができる。
(読むこと ウ 自分の考えの形成)
- (3) 感じたことのが中心が読み手に伝わるように、語句や語順、表現の仕方を工夫して、俳句を創作することができる。
(書くこと ア 課題設定や取材、構成)
- (4) 俳句における語句の効果的な使い方に注意し、語感を磨いて語彙を豊かにすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(イ))

4 言語活動について(学力・学習状況調査分析)

さまざまな俳句を読み味わい、鑑賞する。

この単元を通して、俳句を鑑賞するには、季語や定型、切れ字という俳句における約束を的確に理解して、どのような語句を用いて俳句が書かれているのかという語句の意味を理解し、その効果を読み取る力をつけるとともに、自分が読み取った根拠を明確にしながら俳句について批評する力をつけたいと考える。また、それらを生かして、自分の俳句の創作に生かせるようにしたいと考える。

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
①俳句を鑑賞したり創作したりする楽しさを知り、想像を働かせながら俳句を読み味わおうとしている。	①俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して鑑賞している。 (ア 語句の意味の理解) ②筆者のものの見方や考え方、感じ方を読み味わい、さまざまな俳句を読み比べて、表現の仕方について評価している。(ウ 自分の考えの形成)	①感じたことのが中心が読み手に伝わるように、語句や語順、表現の仕方を工夫して、俳句を創作している。 (ア 課題設定や取材、構成)	①俳句における語句の効果的な使い方に注意して、語感を磨いて語彙を豊かにしている。 (1) イ (イ)

6 指導と評価の計画 (全4時間)

時	主たる学習活動	評価規準	評価方法
1	句会の仕方を理解し、修学旅行で創作した俳句の句会を行う。 ○学習のねらいを確認し、これからの学習の見通しをもつ。 ○句会の具体的な仕方を理解する。 ○修学旅行で創作した俳句の句会を行う。	国語への関心・意欲・態度① 読む能力① 言語についての知識・理解・技能①	発言内容 句会での様子の観察 学習ノート
2 本 時	「俳句の可能性」を読み、俳句の鑑賞や創作における重要点を理解する。 ○「俳句の可能性」を読んで、読み取ったことをノートにまとめる。 ○筆者の鑑賞をもとに俳句の特色を知り、それぞれの俳句に込められた心情や情景を理解する。 ○俳句の鑑賞や創作のために必要なことを聞きまとめる。	国語への関心・意欲・態度① 読む能力①② 言語についての知識・理解・技能①	発言内容 授業の様子の観察 学習ノート
3	「俳句を味わう」の中にある俳句を選んで鑑賞文を書く。 ○「俳句を味わう」に紹介されている俳句を読み、それぞれの俳句の大意を理解する。 ○9句の中から、最も気に入った俳句を1つ選び、作者の心情や句の情景などをとらえて鑑賞文を書く。	国語への関心・意欲・態度① 読む能力①② 言語についての知識・理解・技能①	発言内容 鑑賞の様子の観察 鑑賞文の内容 学習ノート
4	自分が決めた題材を基に、俳句を創作する。 ○これまで学習した俳句の鑑賞力を生かして、自分の俳句を創作し、芭蕉蛤塚忌全国俳句大会に応募する。	国語への関心・意欲・態度① 書く能力① 言語についての知識・理解・技能①	発言内容 俳句創作の様子の観察 創作した俳句の内容 学習ノート

7 単元構想表

「読むこと」 単元（教材）名 「俳句の可能性」「俳句を味わう」 全3時間 重点指導事項 ア

言語活動例	ア		さまざまな俳句を読み味わい，批評する。		
指導事項	重点化	学習活動	評価規準	時	
ア	俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して鑑賞する。	◎	語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む。	俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して鑑賞している。	1 3
イ			書かれた場面をとらえ、内容の理解に役立てる。		2 3
ウ		○	俳句の基本的な形式や約束事を理解することを通して、筆者の俳句に対する見方や考え、感じ方を読み味わう。	筆者のものの見方や考え方、感じ方を読み味わい、さまざまな俳句を読み比べて、表現の仕方について評価している。	2 3
エ			書かれた俳句を読んで、生活や自然などについて考え、自分の意見をもつ。		3
オ			目的に応じて歳時記や句集を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする。		4
関連する伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		(1) イ (イ)	語句の効果的な使い方について注意して、俳句を鑑賞する。	俳句における語句の効果的な使い方について注意して、語感を磨いて語彙を豊かにしている。	1 3
			国語への関心・意欲・態度に関する評価	俳句を読んだり創作したりする楽しさを知り、想像を働かせながら読み味わおうとしている。	1 4

「書くこと」 単元（教材）名 「俳句の可能性」「俳句を味わう」 全1時間 重点指導事項 ア

言語活動例	2年ア		表現の仕方を工夫して、俳句を創作する。		
指導事項	重点化	学習活動	評価規準	時	
ア	上の工夫における語句の効果的な使い方など、表現に注意して創作する。	◎	取材をして自分の考えを深めるとともに、適切な構成を工夫する。	感じたことのが中心が読み手に伝わるように、語句や語順、表現の仕方を工夫して、俳句を創作している。	4
イ			「歳時記」などの資料を適切に引用して、読み手に伝わる俳句を創作する。		4
ウ			創作した俳句を読み返し、全体を整える。		4
エ			創作した俳句を互いに読み合い、表現の仕方について評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方、感じ方を深める。		4
関連する伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		(1) イ (イ)	語句の効果的な使い方について注意して、俳句を創作する。	俳句における語句の効果的な使い方について注意して、語感を磨いて語彙を豊かにしている。	4
			国語への関心・意欲・態度に関する評価	俳句を鑑賞したり創作したりする楽しさを知り、想像を働かせながら読み味わおうとしている。	1 4

8 本時のねらい

「俳句の可能性」を読み、俳句の基本的な形式や約束事を理解することを通して、筆者の俳句に対する見方や考え方、感じ方を読み味わうことで、鑑賞や創作する際に気をつけることができる。

＜人権・同和教育の観点＞

俳句の約束事である「有季定型」や「切れ字」などは、鑑賞する読み手のことを意識した相手意識があることを理解する。(自己啓発力)

9 本時の展開 (2/4)

授業前 俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して、読んだり創作したりする力について

◎つかむ これまでの評価の分析から、単元のつきたい力に対する評価を明確にする。

全国学力・学習状況調査 B問題 設問番号1三「ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く」

条件を満たして解答：29人 条件に不備がある：2人 無回答：6人→個別指導が必要 欠席：2人

	学 習 活 動	指導上の留意点 (○指導 ◎評価)
導 入	<p>① 前時を想起し、どんな点に着目して俳句を選んだのかを紹介し合い、鑑賞力を身につけたいという意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 声に出して読んでみて、その場がイメージしやすい俳句を選んだ。 6月という季節感に合う俳句を選んだが、そういう選び方でよいのだろうか。 	<p>○前回の学習を確認し、俳句の鑑賞力を学び、つきたいという意欲をもたせる。</p> <p>◎つかむ これまでどのような観点で俳句を見てきたのかを確認する。 (実態の見届け)</p>
展	<p>② 本時の課題を提示する。</p> <p>「俳句の可能性」を読み、俳句の重要な言葉を理解して鑑賞する力をつけよう。</p> <p>③ 「俳句の可能性」から読み取ったことを、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句は「韻文」といい、「有季定型」という約束がある。 俳句には「切れ字」という工夫された方法がある。 俳句は、短い字数で多様に表現できる可能性がある。 俳句には「自由律俳句」や「無季俳句」がある。 俳句は難しいと考えずに、身近なものを見て、挨拶をするような気持ちを伝えるように創作するとよい。 <p>④ ノートにまとめたことを仲間と交流し、全体の場で発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「有季定型」や「切れ字」は、俳句にとって重要なものだ。 「自由律俳句」や「無季俳句」という俳句もある 	<p>○本時の課題を提示し、学習活動の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導を通して、どのようなことをまとめたのかを把握する。 (学習状況の見届け) <p>○ノートになかなかまとめられないというつまずきに対して、本文の説明となる部分を指摘したりする。</p>
開	<p>⑤ 全体で確認したことについて、講師の方から補足していただく。</p> <p>○どのようなことに気をつけて俳句を鑑賞すればよいのでしょうか、講師の方の話を聴きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句は韻文であり、そのために切れ字は重要である。 俳句を鑑賞する際は、身構えるのではなく、どの季節のどのような題材で作られたのかを読み取るとよい。 	<p>◎伸ばす 自分がまとめなかったことをまとめた仲間を評価し合い、進んで紹介しているよさを認め合う。</p> <p>○俳句という韻文の特色を焦点化することによって、鑑賞する際のヒントとなるようにする。</p>
終	<p>⑥ 俳句の鑑賞におけるの重要点を確認し、本時のまとめを書く。(定着状況の見届け)</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句を鑑賞するときは、「季語」や「切れ字」に着目してみるとよい。 	<p>評価規準 読む能力② 筆者のものの見方や考え方、感じ方を読み味わい、さまざまな俳句を読み比べて、表現の仕方について評価している。</p> <p>評価方法 交流時の発言内容 授業の様子の観察 学習ノートの記述</p> <p>Aと判断するキーワード等 ・「有季定型」「切れ字」などの語句の意味理解</p>
末	<p>これまで、俳句を鑑賞するのも創作するのも難しいと思っていたが、季語や切れ字というポイントを押さえておくとういことが分かった。気軽に創作もできそうだ。挨拶をする感じで作ってみたい。</p> <p>⑦ 家庭学習について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの風景や心に残る出来事など、俳句にしたい題材を考えてくる。 	<p>努力を要する生徒への指導 本文から説明が書かれている部分を指摘したりする。</p> <p>家庭学習につなげるために 自分が創作する俳句の題材を考える。</p>
<p>家庭学習での評価 俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して、読んだり創作したりする力について</p> <p>◎確かめる 「身の回りの風景や心に残る出来事など、俳句にしたい題材を考える」という家庭学習についての評価を行い、次時の授業の導入における◎つかむ評価とする。</p>		